

第 21 回日本ジオパーク委員会議事録

日時: 2014 年 8 月 28 日 (木) 13:00~18:00

場所: 経済産業省別館 1 階 114 号会議室

出席者:

委員長

尾池和夫 京都造形芸術大学 学長

副委員長

中田節也 日本火山学会 (東京大学地震研究所 教授)

委員(五十音順)

阿部宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事

大野希一 日本火山学会 (島原半島ジオパーク)

菊地俊夫 日本地理学会 (首都大学東京 教授)

斎藤清一 日本ジオパークネットワーク事務局長

高木秀雄 日本地質学会 (早稲田大学 教授)

佃 栄吉 産業技術総合研究所 地質調査総合センター代表

中川和之 日本地震学会 (時事通信社 山形支局長)

成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長

宮原育子 日本地理学会 (宮城大学事業構想学部教授)

目代邦康 日本第四紀学会 (公益財団法人自然保護助成基金主任研究員)

顧問

伊藤和明 防災情報機構特定非営利活動法人 会長

事務局

利光誠一 産業技術総合研究所地質標本館 館長

下川浩一 産業技術総合研究所地質標本館 副館長

渡辺真人 産業技術総合研究所地質標本館

宮内 渉 産業技術総合研究所地質標本館

川辺禎久 産業技術総合研究所地質標本館

大谷 竜 産業技術総合研究所地質標本館

菅家亜希子 産業技術総合研究所地質標本館

13:00 開会

[委員長挨拶] 本日は世界推薦候補 2 地域、日本ジオパーク新規加盟審査 6 地域のあわせて 8 地域について議論する。ちなみに、今年是一般客としてジオパーク候補地に行ったので、審査とちがってたいへん楽しかった。今日の審査について、ご協力のほどよろしくお願ひする。

[資料概要説明]

(事務局) 審査地域のより詳細な報告書は委員のみに配付した。漏れ等がないか確認していただきたい。ここで取材の方にはご退席いただく。

[議事録確認]

(委員長) 議事録をご確認いただき、ご意見等なければ了承したい。

[ジオパーク活動の状況]

(事務局) ジオパークのユネスコ正式プログラム化が進行中である。IGCP を改組し、その下に GGN を置く方向で進んでいる。今年秋のユネスコ執行委員会での承認を目指している。インドネシアやベトナム、タイなどでジオパークへの熱意が高まってきている。

(委員長) IUGS や IGCP は従来から日本が貢献してきたもの。

(委員) 正式にユネスコの組織となったときに、GGN 加盟各地域は法人格を取得しなければならなくなるのか？

(事務局) 新しい規約では法人格を持つことが望ましいとなっているが、どのように進めるのかは決まっていない。

(委員) GGN は法人格を持つことになるが、各地域がその必要があるのかどうかは規約の読み方による。

(委員) 現在の IGCP や国内で関わっている研究者がジオパークとどのように繋がりを作っていくのか？ 関係者と JGC との関係は？

(事務局) IGCP の国内委員長は産総研がやっている。IGCP は科学プログラムであるので、連携を取りつつも、GGN の活動とは別々に推進されるようになると思われる。

(委員) IGCP は日本学術会議の傘下なので、そこで議論されることになるが、学術会議がちょうど改変期にあたり、次期に行われる。

(委員長) 学術会議は 10 年ごとに見直すことになっており、今年がちょうどその 10 年目。私が見直しの作業部会の長をやっている。学術会議そのものがどうなるかわからず、秋に方向性が見えてくる。

[世界ジオパーク推薦審査]

(委員長) 書類はすでに回っているので、要点を簡潔に報告してほしい。

1. 伊豆半島ジオパーク

(委員) 報告書に基づいて説明。非常に地球科学的に価値があるものを適切に解説している。同時進行で研究も進めており努力している。また、それぞれの地域で中心になるような方、旅館を運営されている方だとか、ガイドがいて熱心に活動されていることを現地審査で理解した。敢えて難点を言うと、全体のストーリーの中での各地域の位置付けが不十分である。審査員で判断が分かれた。なので両論併記をした。

(委員) GGN に加盟して発信したいのに、内向きの理由しかない。何回か指摘されていた

と思うが、地域の方々がどうしようとしているのか分からない。

(委員) ジオパークの良さをよそのジオパークに伝えるのがネットワーク活動の意義。例えば防災など、他のジオパークに活用してもらうにはどうしたらいいのか等があまり考えられていない。そういった意味での国際貢献に対する意識が低い。

(委員) ハード的な整備は進んでいるが、世界へ向けた発信が外からはまだ見えていない。例えば伊豆半島の本州への衝突を、大陸衝突に例えて擬似的に説明するような、日本(ジオパーク認定審査)での説明と違うストーリーの組み立て方があるのではないか。そういった視点で、海外からの客にどう伝えるのかについて動きはないか？

(委員長) 何を発信したいかとともに、どのように発信したいかについても、あわせて聞きたい。

(委員) 伊豆半島の衝突についての説明を洗練させて行っているが、外への見せ方が、世界バージョンに切り替わっているわけではない。ガイドの話を聞いても、世界の中での位置付けがまだ不十分である。何度もその点を説明しているが、「ああなるほど」という反応に留まってしまっている。ジオ生け花などいろいろな活動が行われているが、単発として留まっていて、もっと根幹のところを出すところがまだ十分ではない。

(委員) 「ジオパークとしての一体感を持つには至っていない。」ということだが、具体的には？ 15自治体の間に温度差があるということか？

(委員) 各地域でのそれぞれの説明はあるが、全体での位置付けが十分ではなく、寄せ集め感がある、という意味。この場所は何々、としか話さない。ただ、どこも温度は高いことは高い。各地域に温度差があるということではない。

(委員) 世界における実績は？ 国際会議での発信は？

(委員) 外国人の採用で対応が進んだ。英語で質問されてもどこでも対応が可能だろう。事務局がそのところはちゃんとやっている。学術的には国際会議で積極的に発信されている。

(委員) 「その場で語れたら日本ジオパーク、世界に語れたら世界ジオパーク」という意味では、まだ不足。意識は変わり始めているのか？

(委員) 審査効果はあると思う。GGNになるとはどういうことなのか、審査で議論している内に大分理解してくれた。ただし話しをした一部の首長さんだけが。

(委員) 知事に対して議論はしたのか？

(委員) していない。

2. アポイ岳ジオパーク

(委員) 昨年の審査で見送りとなった。資料を基に説明。世界の中でのジオパークの位置づけについては、北極を中心にアイスランドとのつながりも含めて大変分かりやすくなった。アイヌ文化についても体験できるようになっている。このように宿題も真摯に捉えてこなしており、全体として世界に推薦できるレベルにあると判断される。課題は、海外からの客に対する対応と地元資源の保全に向けた対応が不十分なこと。カンラン岩は資源と

してどんどん掘り出されており、門柱などに普通に使用されている。看板が豪華なカンラン岩で建てられていたものは問題。また海外から来る客への対応については、英語での表記がない等不十分。逆にいえば、このあたりが達成できれば GGN に推薦可能である、というのが結論。議会がジオパーク活動を町おこしの重点課題として位置づけており、教育委員会で取り上げられており、熱心にやられている。

(委員) 昨年、ジオは難しいので話せないと言っていたが、そこからどのように変わったのか？

(委員) カンラン岩は地下のマグマがめくれ上がったもので、マグマが地表に噴出したのが有珠山であるという説明で、説明の改善への相当な努力が感じられた。

(委員長) ガイドの講習はあるのか。

(委員) ガイド講習はやられている。今回、ガイドは二人いたが、もしかすると、一番良いガイドさんをぶつけてきたのかもしれない。

(委員長) ジオガイドは高山植物にも詳しいのか？

(委員) そうだ。友の会の人々が地質も含めてやっている。

(委員長) 保全に関する見通しは？

(委員) 現在の採掘範囲以外は新たな開発は認めないということで、今後 5～8 年で採掘は終了する見込み。ジオパークの範囲からも除いている。

(委員) 補足だが、去年、佃さんとアポイ岳に行った。植生以外の、景観や生態系の復元の検討も提言した。

(委員) GGN に推薦した時、国際対応の面は重要。来年度審査委員が来たら、どう現地が国際対応するのか。

(委員) 現在の外国人スタッフがなくなる予定だが、後任が来て引き継ぎをする予定。

(委員) 昨年、海からの景観や海底地形との関係を説明に入れるよう求めた。隆起段丘の説明はあったが、それ以外では？

(委員) これからの課題。全体の状況は回りの地域も含めて完結するが、今は様似町のみ。他の地域にも声をかけているが、他の地域との町おこしの考えや意識の違いは大きい。但し住民の方は熱心に活動している。まず様似町でやってみて盛り上げようとしている。

(委員) 重いカンラン岩がなぜ上がってくるのかを説明するときに、回りの岩石（例えば襟裳岬等）も含めて見せるようにしたほうがよい。カンラン岩以外の見せ方に進展は？

(委員) メランジュや石灰岩・貫入岩も含めて、回りの状況も合わせて一つのストーリーとして作っている。人々の生活とからめての説明があった。アイヌ語の地名と集落との関係も大事だと指摘した。後背湿地があり、そこにはアイヌの集落が一切ないのには理由がある。もう少し整備すれば単に文化だけではない広がりを見せられる、と説明した。

(委員) 今後、専門員としての外国人の採用は？

(委員) 当面は英語指導員が対応することとなる。

[議論]

(委員長) 今年は何ヶ所推薦できるのか？

(事務局) 2ヶ所推薦できる最後の年である。阿蘇が保留となった場合、(阿蘇も候補として残り、あと) 1ヶ所となるため、優先順位を付けたい。

(委員) 最初から世界ジオパークに手を挙げた地域で世界になっていないのはアポイだけである。ここまでやってきて世界に推薦されないと地元が落胆する。

(委員) 伊豆半島はよいと思うが、世界ジオパークになって何を貢献したいのかを書くべき。アポイは採石場をどのようにするのが鍵になる。審査委員がやってきて、採石場を目の前にして、5年後を見据えてやっていることで納得させることができるか。

(委員) ジオパークではプロセスも大切。きちんと説明してもらったらどうか。

(委員長) 5年という数字に意味はない。保全をどのようにするのかを意思表示することが大事である。

(委員) 伊豆半島では審査員の判断が分かれたということだが？

(委員) 2名の審査員がまだという判断で、1名が推薦可とした。

(委員) 報告を聞いた限りでは2ヶ所とも推薦したい。

(委員) 両方とも特徴がしっかりしているということでOK。順番的に言うと、アポイは認定されてすぐに国際対応等ができるかどうかポイント。伊豆は昔からの観光地。インフラやツーリズムも整備されており、ジオパークのコンテンツを既存のものに埋め込めば、スムーズに行くのではないかと。後は世界に何を訴えるかどうかさえあれば、GGNになってもすぐに混乱せずに行けるのではないかと。

(顧問) 伊豆半島はミニインドでの喩えなど、グローバルな意味付けが必要である。

(委員) 現場で議論したが、正確さを欠くので、そのような説明はしないとのことだった。科学的に真摯であり、そうした態度は大切にしたい。

(委員長) アポイの、めくれ上がった地殻も大きな特徴。アポイの国際貢献はどうか。

(委員) アポイの国際貢献として、海外研究者の招聘や学生の受け入れが挙げられる。

(委員) オマーンとの交流があり、西アジアのジオパークとの連携を一緒に考えていければ、という意識はある。

(委員) 審査の後、現地の人はどう考えているのか聞き取りをしたが、国際貢献への明確な答えはなかった。但し、災害だとか諸々の情報を、ネットを使って外に出していくことを始める動きは出ている。

(委員) 伊豆半島とインドとはちがうというのはそのとおりだが、アナロジーとしては使える。サイエンスにこだわりすぎるのはどうか。

(委員) 今回、審査委員が地学の専門知識があったので、インドの喩えは避けた。

(委員長) 伊豆半島は、そうした議論ができるジオパークとして捉えられる。世界ジオパークは、グローバルな位置付けを議論するものであるため、議論が起きるのは良い。では、どういう結論にするか。順位を付けて出すのか、1ヶ所にするのか、個人としては2ヶ所出したい。

(委員) アポイ岳の場合は採石場をどうするのか、条件を付けて出す必要がある。

(委員長) 伊豆半島を含めて、条件付で出すこととしたい。

(委員) その場合、伊豆半島では審査員 2 名が時期尚早という判断をしているのが気になる。

(委員) 地域全体の一体感に欠けているというのが一番の理由だった。

(委員) 世界に向けた全体としてのストーリーを考えろという条件を付ける。

(委員) 協議会の中心がしっかりしているので、クリアは可能である。

(委員長) では、条件付きで 2 ヶ所推薦することとしたい。順位は？

(委員) 現地審査委員の判断を尊重し、3 人とも GO サインを出したアポイ岳を一番、伊豆半島を二番の順でよい。

(委員) 賛成である。

(委員) アポイの場合、看板の立替と保全計画に時間がかかるので、アポイを 2 番目にすべき。伊豆半島はすぐにできそうである。

(委員) 世界への発信については、伊豆半島も看板を全部掛け替えないという意味では時間がかかるのでは。

(委員長) これは推薦することで促進されることを期待し、アポイ岳、伊豆半島の順番で推薦することとしたい。

(委員) アポイが審査でペンディングになる可能性があるのでは。

(委員長) それも覚悟の上。みなさんよろしいか？

[国内審査]

1. 下北半島

(委員) 報告書をもとに説明。対象となっている下北半島の範囲が一般の認識とは違う。地質がメインとなっているが、市町村の範囲が決まった上で、地質概論の説明になってしまっている感がある。ガイド養成の仕組み作りも始まったばかり。一方ジオパーク活動によって地域住民が地質に興味を持つようになり、原発の立地を地域住民が自分達で考える上で一つのきっかけにはなっている。その点について推進協議会会長にヒアリングを行った所、原発がなくなった後の地域活動の中心としてジオパークを位置づけたいとのことだが、いかんせん地域の準備が整っていない。

(委員) 地域の準備が遅れ気味というのは同感。但し、原発の存在自体がジオパーク認定の可否に関わるという立場には反対。その前に JGC としての考え方の議論をすべき。

(委員長) JGC で原発を議論したことはなかったが私個人としては気にしている。以前、いくつかの原発を視察したことがある。実際に見て考えるべき。直接それをからめた議論はここでは行わない。

(委員) 半島の北部地域だけで半島という名前を使っていいのか？ 議論されたのか？

(委員) 現地の人は「下北」と呼んでおり、議論がかみ合わなかった。

(委員) 半島という名前で、一体でないといけないとは言えない。

(委員長) 中身が決まった後で名称は決まるので、最後でいい。

2. 筑波山

(委員) 報告書に基づいて説明。評価できる点として、筑波山と霞ヶ浦の地質学的な重要性のみならず、古代からの山岳信仰や文化・芸術発祥の地で、筑波山の石材産業を霞ヶ浦の水運が支えて日本の近代化を推進した等内容があり、地場産業の農業等も盛んで、地質資源のみならず、文化資源・生物学的資源の様々な見所のあるジオサイトがある。研究所・博物館等拠点となる施設が多くあり、NPO 等による地域研究やガイド活動も盛んに行われている等、ジオパークとしてのポテンシャルは高い。課題として、サブテーマ「地下 10km と海拔 0m の神秘」がわかりにくいこと、採石場等がありジオパークの理念への理解が不足していること、6つの自治体や沢山ある NPO の連携が不十分で、つくば市のみが活動的なことが挙げられる。推進体制は整備されているがあまり機能しているように見えず下部部会からの意見が届くシステムになっていない。人口の多い研究学園都市の住民をどのようにジオパークに参加させるかの仕組みもない。ワンポイントツアーが多く、それらを束ねたものが必要。結論として、保留としたい。

(委員) 保留は 1 年以内に改善される見込みがあることが条件。そもそも公開審査の時にはネットワークに参加するのだ、という意識が欠けていた。

(委員) その件は、こちらが指摘するまで認識がなかった。

(委員) 見送りではなく保留か？

(委員) 保留にして再度審査するのがよい。

(委員) 自分たちのことだけ考えていたということについては、審査員の指摘で認識が変わったと思われる。一方、沢山のジオサイトはあるが、全体のストーリーの中での関連付けが不十分であった。大きなポイントがあるけれどパーツパーツのみ。

(委員長) 全体のテーマの正式名称は？

(委員) 「紫峰と霞ヶ浦のジオが紡ぐ悠久の歴史と未来へ引き継がれる人々の暮らし ~地下 10km と海拔 0m の神秘~」

(委員長) 読まないと言えない。

(委員) 「紫峰」は地元以外には分からない。内向きの目線で組み立てている。

(委員) 霞ヶ浦は一部しか入っていない。でも提示されたテーマをみると霞ヶ浦全体に見える。環境問題などいろいろな課題への取組みについては？

(委員) 環境問題はテーマにしている。霞ヶ浦環境センターが対応している。

(委員) 筑波山というと花崗岩だが、霞ヶ浦とはかけ離れていて、ストーリー作りは難しい。

3. 苗場山麓

(委員) 報告書をもとに説明。新潟と長野の両県をまたいでいるが、自治体の垣根は低い。

地域を越えて活動している。特徴は第四紀。2つの火山と河岸段丘、その上に有数の縄文遺跡。地球環境変動からローム堆積物の耕作等、いろいろなストーリーが作れる。事務局は埋蔵文化財センターだが、10年以上の実績があり充実。足りない部分は大学の先生にお願いしている。課題は、サイトは面白いが全体のストーリー構築が不十分なこと、風穴湧水は大きな遺産だがまだ研究途上であること、ガイドが養成途上であること（聞いておもしろさを伝える段階にはまだなっていない等）。ただ結論としては、審査委員全員が認定可とした。

（委員）津南町だけが活動しているのは問題なのでは？

（委員）かなり聞いたが、栄村は復興途上で財政的に厳しいので、仕方ない面がある。事務局に参加している栄村の方はいる。

（委員）栄村の防災教育は？

（委員）善光寺地震での崩壊地などがあるが、活用はこれから。佐久間象山の「切り分け」も入れていく予定。

（委員）活断層地形や地震災害については？

（委員）活断層の説明はなかったので指摘した。地すべりが起こりやすくなっているということは理解されているが、これらのことをストーリーとして活かすまでには至っていない。

（委員）推進組織としての活動はあまりなく、教育委員会主体なのは問題では？

（委員）地域振興や観光とあわせてやりたいと言っていたが、推進体制としては1年しか経っていない。もっと時間をかけたらと助言したが、やってきている実績はある。

（委員）事前相談会には参加していた。それまでに準会員になっているので申請は可能だった。

（委員）縄文時代の遺跡や遺物が知られているが、考古学をストーリーとして取り入れることは？

（委員）今回は地質・地形中心の説明だったので、同行した審査員がもっと考古学の意味付けを行っていくことを助言していた。

14:58 ~ 15:05 休憩

4. 立山黒部

（委員）報告書に基づいて説明。キャッチフレーズでだいたい理解できるが、38億年というのは一つのジオサイトだけなので、わかりにくかった。民間主導で、自治体や大学、学会等がサポートするというユニークな組織であり、現地審査でつぶさに調査した。民間ならではの良さがあった。民間団体がソフト面で活動し、行政がハードや財政面でサポート、とうまくかみあっている。更に大学だけに留まらない様々な研究者が科学面についてサポートしており、地域に根ざした既存のガイドグループがあつて、ジオのガイドにもなっている。博物館等拠点施設も充実しており、新幹線開通を目前に、北陸地域をつなぐジオパ

ークとして活気付いている。北陸新幹線の黒部駅には地域振興ギャラリーがあり、北陸全体のジオパークを紹介していた。課題は、活動が旧市町村で固まっていることである。

(委員) どうしてそこまで民間が関与できるのか? 一般的にジオパークは儲からないのに、持続可能か?

(委員) 儲かるかどうかは地元の経済団体が考えており、その一貫としてジオパークに取り組んでいる。どちらかというと行政はひっぱられている。

(委員) 法人格を持たないと、継続性や、お金の受け入れなどの問題では難しいのでは?

(委員) 認められれば法人格を取ることになる。富山の主だった企業が入っている。

(委員) 経営トップが代わるとどうなるのか心配である。また、当初の疑問で、なぜ富山市が入っているのか?

(委員) 最初の質問だが、若手の経営者も頑張っている。2番目の質問について現地で質問したらきちんと答えてくれた、つまり、常願寺川の先端が富山市内に入り、そこから神通寺川に水を入れているので、関連があり、富山市内を入れる意味はあるとのこと。

(顧問) 飛越地震の災害を教訓として砂防工事が行われるようになった。富山県は、砂防堰堤を世界遺産にしようとしているので、ジオパークには消極的になっているのでは?

(委員) 地元住民の参加はどうか? 30万人の富山市民への普及をどうするのか?

(委員) 富山市は地理・地学教育が盛んで、民間主導で行っている。小学生は必ず立山へ行き、ジオガイドが付く。

(委員) 立山砂防博物館に関わっているのであえて質問するが、ラムサール等これまでの活動で認知度も十分なのに、なぜあえてジオパークを目指すのか?

(委員) その点は何回も現地で質問した。皆が言うには、やはりエリア間で連携したいとのこと。一体性の確認と推進である。

(委員) 新幹線が開通し、糸魚川、黒部、白山が結ばれる。北陸三県にひとつずつ、間の富山県にも作りたいということがある。それぞれ違いがあり、それぞれで学べるものを作りたいとのこと。北陸で連携しあっていくことを考えている。

(委員) 自治体負担の仕組みは?

(委員) 協議会の中に自治体支援会議があり、毎年予算を付けるための協定書を交わしている。しかしながら、具体的な整備計画は必要である。

(委員) 糸魚川ジオパークの視点で、その妥当性をどう考えるか?

(委員) 立山黒部で北陸4地域の連携会議を行っている。

5. 南紀熊野

(委員) 報告書をもとに説明。良い点としては、月一回の会議等情報共有が行政間でよくできていること、住民活動が活発なこと、既存の観光ガイドという下地があり、それをうまくジオに潜り込ませてやっていること。ジオパークと、世界遺産等の文化が融合し、コラボがうまくできていること等である。改善点としては、事務局に県からの人が少なく、持続的な推進体制をどうするかという点、最新の学術情報の共有をどうするかという点、

行政の更なる関わりにおいて部署や地域で温度差がある点、のぼりやパンフが少ない等ジオパークという雰囲気はまだ少ない点。道の駅の連携や大きな施設を作る計画があるが、もう少しコアが欲しい。結論としては、審査員全員が認定可とした。

(委員) ジオがなければ文化がなかったということで地元の認識があり、もともと流れがあって自然に盛り上がっていった。クジラ漁については、地形と文化との関係で発達してきた。

(委員) 市町村の関わりについて、県が主体で進めているということだが、市町村の顔が見えない。今後の継続的な活動につながらないのではないか？

(委員) 地域住民の活動は活発だが、それを市町村が拾ってサポートしていないのが問題で、県に直接行っているのか？ そうした点の当事者意識を持って欲しい旨、報告書では指摘した。

(委員) 非常にトップダウン的な印象。協議会の中に市町村が入って意見を言えるような場はあるのか？

(委員) 県主体で動かしているのだから、今後はいかに市町村に主体性を持たせるかが課題である。

(委員) アクションプランを求めていく必要がある。

(委員) 世界遺産とのコラボレーションとは、具体的にどのようなことか？

(委員) 那智の滝の形成と地質との関係が説明されていた。

(委員) 岩が神になっているので磐座（いわくら）と言い、それをでき方から説明されていた。

(委員) 世界遺産のガイドとジオガイドの関係は？

(委員) 世界遺産のガイドの中に認定ガイドがいる。

(顧問) 津波の想定が昭和の地震を基準としていたが、訂正されたか？

(委員) JAMSTEC の研究成果を取り入れるようにすべきと提言した。最新の研究成果が直に伝わってこないのは問題。

(委員) 世界遺産とのコラボレーションで行政間の連携はどうなっているのか？

(委員) 行政関係は世界遺産とはきちんとコラボしていない。ジオパークのコラボも（とくに三重県と）は不十分である。ガイドさん同士は三重県、和歌山県間で交流はある。

6. 天草

(委員) 報告書に基づいて説明。有明海の島々に白亜紀～古第三紀のほぼ連続的な地層やケスタ地形等の特徴的な地質・地形が見られ、化石や石炭、陶石等の石を利用した文化や景観がある。今回の申請の意義は、ジオパークによる地域活性の効果を天草の全島域に拡大するとともに、地域住民の視野を拡大したいというものである。こうした地質遺産を元に、化石採集体験、クルージングによる地質探訪、グラスボートなどによる海中観察等、天草ならでのジオツアーが楽しめる。専門員を配した主たる拠点施設がいくつもあり、ジオサイトの保全活動や教育、高いスキルを持ったガイド養成体制、構成自治体や研究機関による組織運営等もしっかり整いつつある。課題として、重要性のあるジオサイトがまだ

効果的に盛り込まれていないこと、天草全域を解説できるジオガイドが少ないこと等である。結論としては、審査員全員が認定可とした。

(委員) 九州の中での位置付けやストーリー構成は？

(委員) まだ化石中心である。下島に 1 億年前の変成岩があり、九州の中での位置付けは可能である。

(委員長) 全体の拠点施設は？

(委員) 御所浦白亜紀資料館とビジターセンターがある。

(委員) 最初の御所浦と同じものの審査ではないが、ここまでで変化した点は？

(委員) 地元の人たちが結構、地元のことしか知らないので、全体を語れるようにしたいとの意向が感じられるようになった。

(委員長) これを認めると、天草御所浦ジオパークが解消するのか？

(事務局) 新規ジオパークとして認められると、その後に既存ジオパークと合併するという手順になる。

(委員) 来客へのアンケートなどモニタリングは？

(委員) 追加資料にあったはず。

(委員) 地域の拡大によって、これまでの御所浦の活動が薄められるという懸念は？

(委員) 私の印象だが、人の行き来が増えて、むしろ交流が広がって充実するだろう。

[議論]

(委員長) 下北半島と筑波山は見送り、他の 4 地域は認定ということに対して意見は？

(委員) 苗場山麓は保留でもう少し経験を持ってもらうのもいいのでは。準会員で 1 年もたっていない。

(委員) 苗場は時間を置くことに賛成。

(委員) 問題点は知りつつ、ポジティブに評価したのは今の事務局体制でいいのではということだった。

(顧問) 筑波山を保留にするのであれば、防災対応に注文を付けたい。

(委員) 保留の場合、具体的に課題が見えていて 1 年以内に解決の見通しがあるというもの。

(委員長) 苗場は、三陸海岸の場合と同じように、災害から復興に向けての支援ということで認定しようということはある。

(委員) ただ、準会員になって 1 年で申請できるという今の体制は問題があるのではないか？

(委員長) 現地審査をする、という時点で認めているので、1 年と短いから、というのはどうか。

(委員) がっかり効果よりも、奮起効果があれば保留も良い。むしろ保留によって課題が解決されるのであればすぐに認定の場合よりも良い場合があるのでは？

(委員) 保留のカードの切り方は価値がある。行政が発奮する場合も。

(委員長) 簡単に通してしまうと。

(委員) これでいいや、となってしまうので。苗場の場合、保留にしたほうがいい効果が出る。

(委員) 判断が難しい。やっている人は決心があるので、保留でしぼむことはないと思うが、どう書くかが問題。保留の意味するメッセージを明確にすべき。

(委員) 保留というのは自治体に対してすごいメッセージ。保留されたところは 1 年以内でなんとかしようとする。これまで見送りで翌年すぐに出す地域というのは中々無かった。保留にして、一緒に作っていくというのは悪い方向ではない。

(委員長) 苗場と筑波山地域は保留で、下北半島は？

(委員) 筑波山地域は保留ではなく見送りが妥当である。ネットワークの一員になりたいという活動をして欲しい。苗場はまだまだ未成熟で、年度末までにアクションプランを求めて、出てこなければその段階で別の結論があってもよい。今までのような保留ではなく、保留の考え方を拡大してみてもどうか。

(委員長) あまり考え方を変えない方がよい。アクションプランが出る可能性があるならば保留。苗場なら出る可能性があり、下北と筑波山地域はアクションプランが出る可能性が小さいということか？

(委員) ネットワークの一員になるという意識が希薄だった点について、筑波山地域の横浜での行動が気になるということだが、あまりそれを大きく取り上げる必要はないのでは？ 長く関わっている委員の方には不満だろうが、複数の自治体がなんとか頑張っやろうとしていたのだと思われるので、ディスカレッジさせないように、前向きな方向を出して欲しい。

(委員長) そのことだけを取り上げてということではない。ジオパーク全体の活動に貢献するという役割を持ってもらわないと。下北と筑波山地域は見送りで、苗場は保留、後は認定ということではいいか？

(委員) 筑波山地域は課題が書いてあるが、苗場とそんなには変わらない。

(委員) テーマ的な拡がりの部分というのがちゃんと整理されているのか。筑波は 1 年で実現可能なアクションプランが出せそうか？

(委員) 難しい。

16:18 ~ [プレス発表資料作成]

(委員長) アポイ岳と伊豆半島をこの順で GGN に推薦することで資料を作成したい。

(事務局) プレス発表用の GGN 加盟推薦と JGN 新規認定の資料を、議論をもとに修正した。

(委員) 苗場の保留については、具体的な計画とそれを支える活動を明確にしてほしい。

[再認定審査について]

(事務局) 今年度の再認定審査について、資料に基づいて説明。

(委員長) とくに意見がなければ、基本的にはこの方針で再認定審査を行うこととする。

(委員) チェックリストに基づく自己点検を、再審査を受ける各地域は行っておくべき。

[その他]

(事務局) 連合大会におけるパブリックセッションのあり方を見直したい。普及の目的は達したと思われる。他方、公開審査は面白くないという意見もあり、審査をクローズにして、パブリックセッションの中身をどうするか検討いただきたい。新規地域と既存地域でバーチャルジオツアーを行うとともに、観客から見たジオパークの討論会を行うという案を考えている。

(委員) 審査を受ける地域と新規地域でバーチャルジオツアーを行うというのはどうか？

(事務局) ここでは変更するという認識いただき、今後、案を出していただきたい。次に、次回委員会の日程について、11月11日と12月22日のどちらかで決めたい。

(委員長) 12月22日(月)午後1時からということで決定したい。

17:15 閉会

事務局員による審査結果の電話連絡

[記者発表]

尾池委員長によるプレス発表説明の後、質疑応答。

(質問) 世界ジオパーク推薦でアポイ岳が優先されることになった理由と、推薦枠が1ヶ所になった場合、伊豆半島は申請できなくなるのか？

(委員長) アポイ岳の審査の結果、優先することになった。枠が1ヶ所になった場合も、失格ということではなく、リストには入ることになる。お待ちいただくということである。

(質問) 阿蘇が決まるのはいつか？

(事務局) 9月19日からのカナダで大会が開かれ、その最終日の9月22日に発表される。

(質問) 伊豆半島の推薦では、条件を付けてということだが？

(委員長) 12月の申請までに期限があるので、推薦するためにクリアすべき点について、委員会とやりとりをしながら仕上げていく。その一つのポイントとして、世界にどういう貢献をしていくのか、GGNの一員になるということは世界にアピールしていくことがルールとしてある。その点を明らかにしてもらおう。

(質問) 一体感の醸成とは？

(委員長) 個々のサイトは充実しているが、伊豆半島全体としてまとまりを持って活動してほしいということ。

(質問) 苗場山麓の保留は、今後どのような扱いになるのか？

(委員長) ジオパークになる資格を持っていることは認めているが、具体的な裏づけが必要で、確認できる計画を提出いただき、数ヶ月を目途に認定するということ。

(委員) 昨年も十勝鹿追が保留になり、12月までに解決策を出していただいて認定したと

いう例がある。

(委員) 次回委員会までに間に合えば、そこで結論が出せる。

(委員長) ただし、書類提出をもってすぐ認定するというではない。その結果、見送りということもありえる。

(質問) 阿蘇が世界に認定されたら2ヶ所申請できるというのは、どういう仕組みなのか？

(事務局) 申請は各国同時に2ヶ所までと決まっており、阿蘇が保留になるとその枠が1つ減るので、申請できるのは1ヶ所のみとなる。スケジュール感としては、12月1日に各地域からGGNに直接申請、その後書類審査が行われ、それが来春に通ったら5～8月に現地審査、来年の秋に認定の可否もしくは保留が分かる。

(質問) 来年秋というのは9月でよいのか？

(事務局) たぶんそうだ。

(質問) 制度が変わると申請できる数が変わるということだが、アポイ岳の状況も変わるのか？

(事務局) アポイ岳が今年12月に申請できるというのは変わらない。

(委員長) アポイ岳の特徴は、マントルが地表に出ていることで、これは世界的にも珍しい。GGNに加盟できればアポイ岳の名前が有名になるという期待がある。特徴ははっきりしている。

(質問) 推薦によって加盟の実現性は高くなるのか？

(委員長) それは審査員が審査して決めることなのでなんとも言えない。ただ、日本ジオパーク委員会が今まで6ヶ所推薦したところは全部GGNに加盟できた。ただし、今後もそうなるかどうかはわからない。保留になる例は世界的には結構多いが、日本だけは全部通っている。

(質問) 阿蘇が2年続けて保留になる可能性は？

(委員長) 阿蘇は現在審査中で、保留にはなっていない。

(委員) 世界での保留は2年が限度。その意味で、阿蘇には頑張ってもらわないと。

(質問) 伊豆半島の頑張り次第で順番が変わることは？

(委員長) よほどのことがないと、普通はあり得ない。1位になったが申請しませんでしたら考えるが、そんなことはないでしょうから。

(質問) 伊豆半島が地質学的に評価されたポイントは？

(委員長) 若いプレートが衝突している世界的に珍しい地域で、北伊豆地震を起こした活断層の活動が歴史的に2回認められている日本で唯一のもの。数十万年前のものがプレートによって運ばれている一方、最近の活発な地殻変動を受けている地域でもある。

(委員) 研究が積極的・継続的に行われていることも評価した。

(質問) 伊豆半島が2位になった理由、つまり1位と2位の差は？

(委員長) アポイ岳が総合的に優れていたということ。自然現象に優劣はないが、どのように見せていくか総合的に判断した。伊豆半島は範囲が広く、沢山のものを含んでいて、まとまりが気になる。アポイ岳は一つの町でやっている。その明瞭さがある。

(質問) つまり一体感が足りないということか？

(委員長) そうだ。

(質問) 今回の天草は単体で認定されたのか？ また、今後合併したときのメリットは？

(委員長) 単体として認定したが、合併することも了解済みである。合併することにより、地域だけでなく歴史も広がり、地形的な特徴を取り込むことができる。範囲が広がることにより活動が薄まるのが気になったが、それはないとのことだった。

(質問) 立山黒部は民間主導ということだが、これは最初の例か？ またその特徴は？

(委員長) これまでに民間が参画している例はあり、初めてとはいわないが、大きな役割を担っているのは特徴的である。

(委員) 阿蘇は民間主導だったのでジオパーク初ではないが、規模としては立山黒部のほうが大きい。

(委員長) ジオパークはトップダウンだけでやるものではない。地域の住民がジオパークを理解し、ガイドをやり、持続可能な組織作りをしっかりとやっているというのが審査の一つのポイント。知事がやれ、といったからではない。それだけでやっていると首長が変わった時にひっくり返る場合があり、持続できない。民間がしっかりとしているのが条件。それが先に出てきたのが民間主導の意味。初めてとかそういう意味ではない。

(質問) 海と合わせると広いが、日本最大？

(委員長) 三陸が日本最大で、山陰海岸が 2 番目。立山黒部は 3 番目くらいか。あまりそのような比較はしたことはなかった。

(質問) 阿蘇が保留になり、来年 2 ヶ所保留になると、伊豆半島はどうなるのか？

(委員長) 来年 GGN の規約が変わるので、現時点ではどうなるか不明。ただし、伊豆半島は推薦されたことは来年も有効である。

18 : 00 終了